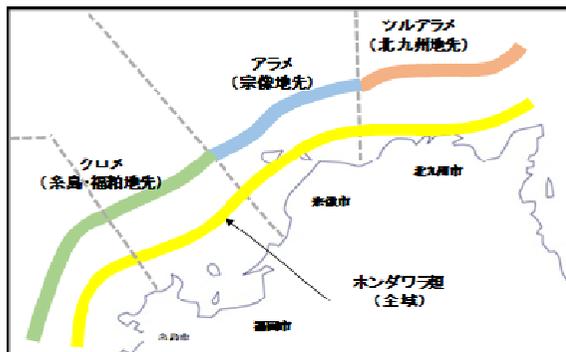


福岡県筑前海域 藻場ビジョン

- ・ 県や漁業者等で漁場のモニタリング調査を行い、情報共有しながら管理し続ける体制づくり
- ・ 機能の低下した漁場のメンテナンスを目的とした手法を導入することで、漁場機能を高める

①筑前海の藻場の概要

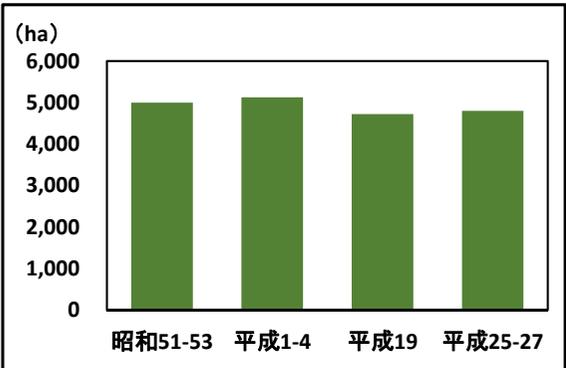
- ◆ 筑前海の藻場は、海岸の面する方角や地形、季節変化などの影響を受け、種組成や海藻量が異なる。
- ◆ 特に、冬季は一年生海藻類が繁茂するため、夏季に比べて海藻量は増加する。
- ◆ 年ごとに比較すると、海藻の種組成、現存量は比較的安定しており、藻場面積は概ね横ばいである。



対象海域と優占種

小型海藻類	フクロノリ、マクサ等
一年生海藻類	ホンダワラ類、ワカメ等
多年生海藻類	アラメ、クロメ等

藻場の主な構成種



藻場面積の変遷

③藻場の保全・創造に向けた行動計画

【保全活動】

ソフト：漁業者によるウニ類の除去、母藻投入 等
ハード：ウニ除去を容易にするための石材再配置 等

【モニタリング】

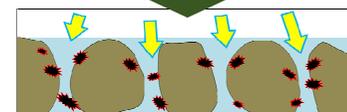
県：ラインセクト調査、コドラート調査を実施し、藻場面積や種組成等を解析。
漁業者：水産多面的機能発揮対策事業を活用し、活動範囲の藻場面積と海藻被度を調査。

【評価・検証】

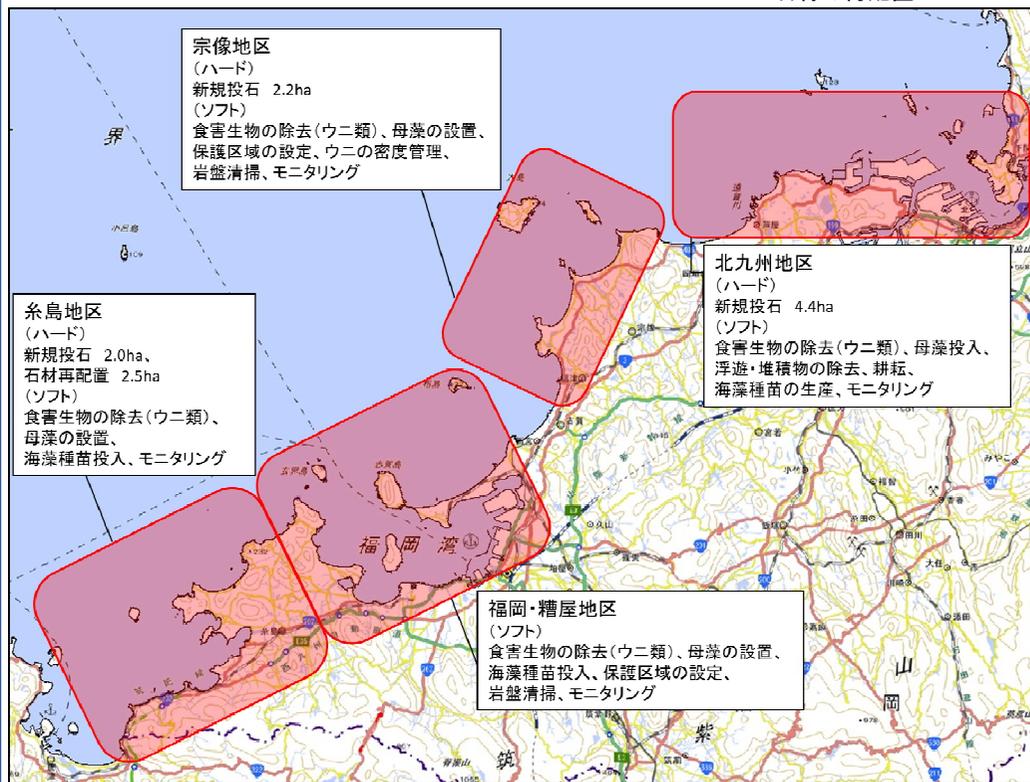
藻場の再生状況等のモニタリング結果を県行政及び研究機関、関係市町、民間企業、漁業者等と共有し、目標に達していない場合は必要に応じて取組内容の見直しを行う。



ウニの除去



石材の再配置



各地区の活動内容

②局所的な藻場の衰退

- ◆ 筑前海の一部の藻場では、海藻の現存量減少が確認されている。
- ◆ 投石漁場の一部では石材の間隔が密になり、ウニ類にとって好条件となっているほか、空隙が小さく除去活動の妨げとなっている。

藻場の衰退要因

①植食性動物による食害	ムラサキウニ等による海藻の食害
②幼胚(タネ)の供給不足	母藻の減少に伴う供給量の減少
③海況変化	水温上昇に伴う藻場への影響